

黒田剛司氏

泰聖書店

津島歴史紀行より抜粋

○中野

中野は中島の内を下構の境を東へ入った一区画の町である。地名の由来は「中島ノ野」の略かと考えられる。古い郷土芸能くつわ踊りが伝承されている所である。馬の轡を手に持つて首には手綱をかけた「くつわ踊り」は錢太鼓を持った少年、朱傘を手に持ち烏帽子と称するずきんをかむった「傘張り」の三人の四組が踊るものである。くつわ踊りは江戸時代には「かかり（懸）踊り」と称された。この踊りは、初めは静かに四季の風景の歌を謡い、後半では拍子が急になり、唄も踊りも激しくなり一所に走り、かかるが如くの風情があるので「かかり踊り」と称された。くつわ踊りの起源は、織田信長の「津島踊り」に発するといわれる。「信長公記」の首巻には、信長らが津島でおどりを御張行した記事（織田真記に弘治三年（一五五七）とある）がある。

『七月十八日おどりを御張行。』

（中略）

一、上総介どのの御仕立に御成り候て、小鼓を遊ばし、女おどりをなされ候。

津嶋にては堀田道空庭にて一おどり遊ばしそれより清洲へ御帰りなり。津嶋五ヶ村の年寄共おどりの返しを仕候。是又結構申すばかりなき様躰なり。・・・』

くつわ踊りの起源が、信長の「女おどり」か津嶋五ヶ村の年寄らの「おどりの返し」のいずれかは不分明である。現在、くつわ踊りは県指定無形文化財となっている。

中野東切には、元禄の頃から太鼓師の家々があった。堀田新五郎店（現、津島市下新田町五丁目）は十八世紀末期の寛政年間の創業であり、昭和九年の皇太子殿下の御降誕を奉祝して、宮内省を経て飾太鼓を献上した。また、文政五年（一八二二）の創業と伝えられた山本店もあった。吉祥坊がある。吉祥坊（現、吉祥寺。中野七）の宗派は真言宗で津島の不動院の末寺であった。山号は青龍山、本尊は不動明王（一尺二寸）、境内は一反五畝二歩が備前検除地であった。創建年代は不詳であるが、境内が備前検除となっていたことから、慶長十三年（一六〇八）以前の創建と思われる。吉祥坊は門前にある八剣社の社僧坊であった。八剣社は下構村の産神として信仰された。八剣社（八剣宮）の社地は三畝歩である。八月朔日に祭礼があり、中野・中島・厨子下構の四切が祭りを行った。中野・下構の山車二輛があったが焼失したと伝えられる。